

# 平成15年度病害虫発生予察特殊報 第1号

平成16年2月10日  
埼玉県病害虫防除所

## インパチエンスえそ斑紋ウイルス(INSV)による花き病害の発生について

### 1 発生経過

- (1) 平成15年10月、県内の花き生産農家のシクラメンにえそ輪紋症状を示す株が発生し、同年12月、他地域の農家のシクラメンにも同様の症状が確認された。  
埼玉県農林総合研究センターにおいて、被害株をRT-PCR法で検定したところ、県内では未発生の *Impatiens necrotic spot virus* (INSV) が検出された。
- (2) 本ウイルスによる病害は、現在、花き類を中心に34科の植物で報告されているが、1990年にアメリカにおいてインパチエンスで報告されたのが最初である。日本国内では平成11年に静岡県、岡山県、福岡県及び秋田県で発生が確認され、その後も発生地域は拡大し、近県では平成12年に神奈川県、平成13年に栃木県、長野県、平成14年に山梨県、群馬県及び千葉県で確認されている。

### 2 病原及び病徴の諸性質

#### (1) 病原ウイルス

*Impatiens necrotic spot virus*

#### (2) 病徴

被害植物の主な病徴は、えそ、退緑及びモザイクであるが、輪紋、斑点、茎条斑型の症状を呈することが多い。トマト黄化えそウイルス(TSWV：埼玉県初発生平成9年)の寄主植物、病徴とは共通点が多く、観察による両者の識別は困難である。

#### (3) 病原の諸性質と伝染経路

ア INSVはミカンキイロアザミウマにより媒介される。

イ 汁液接種によって容易に感染を起こすが、自然条件下での隣接株への接触伝染は不明である。

ウ 種子伝染及び土壌伝染は現在のところ報告されていない。

エ INSVの感染が報告されている植物種は別紙のとおりであり、非常に広範囲に及んでいる。

オ TSWVと近縁関係にあると推定され、形態や諸性質は酷似している。

### 3 防除対策

- (1) 施設周辺の雑草や販売予定のない花き類などは、アザミウマ類の増殖場所となるので、速やかに除去する。
- (2) 無病苗を使用するとともに、施設内への保毒虫の浸入を防止するため開口部に寒冷紗などを張る。
- (3) ミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。(防除薬剤は下表参照)

- (4) 発病株を確認した場合は、速やかにほ場外に除去し、土中に埋設する等により処分する。
- (5) 手指やハサミで汁液伝染する可能性が否定できないので管理作業には十分注意する。

#### シクラメンのミカンキイロアザミウマ防除薬剤

薬剤名	散布濃度	使用時期	使用回数	備考
パダンSG水溶剤 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">劇</span>	1500倍	発生初期	5回以内	
エビセクト水和剤 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">劇</span>	1000倍	発生初期	5回以内	
オルトラン水和剤	1000~1500倍	発生初期	5回以内	花き類(草本植物) ・観葉植物で登録
馬拉ソン乳剤 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">注</span>	2000~3000倍	発生初期	6回以内	同上

注 : メーカーによりアザミウマ類への登録のないものがあるので注意する。



輪紋が現われた葉

- キク科：レタス、ガーベラ、シネラリア、デージー、キク、ダリア、マリーゴールド、ソリダゴ、ムギワラギク
- ナス科：ジャガイモ、トマト、トウガラシ、クコ、タバコ、ペチュニア、ダチュラ、シザンサス
- シソ科：スイートバジル、西洋ハッカ、サルビア、コリウス、モナルダ、カクトラノオ、モルセラ
- ゴマノハグサ科：ジキタリス、キンギョソウ、カルセオラリア
- ユリ科：タマネギ、ユリ、オモト、ドラセナ、ギボウシ
- イワタバコ科：グロキシニア、セントポーリア
- ユキノシタ科：アジサイ、ユキノシタ
- ツリフネソウ科：ニューギニアインパチェンス、インパチェンス
- フクロウソウ科：ゼラニウム、ツタバテンジクアオイ
- キンポウゲ科：アネモネ、デルフィニウム、ラナンキュラス
- アブラナ科：マガリバナ
- サトイモ科：シンゴニウム
- ベンケイソウ科：カラコエ、セダム
- クマツヅラ科：バーベナ、ランタナ
- リンドウ科：トルコギキョウ、エキザカム
- アヤメ科：アイリス、グラジオラス
- サクラソウ科：プリムラ、シクラメン
- ツツジ科：アザレア
- マメ科：エンドウ
- バラ科：カナメモチ、シャリンバイ
- ヒユ科：ケイトウ、センニチコウ
- キキョウ科：カンパニュラ
- アカネ科：クチナシ
- コショウ科：ペペロミア
- ヒガンバナ科：ユーチャリス
- ケシ科：ケシ
- アルストロメリア科：アルストロメリア
- シュウカイドウ科：ベゴニア
- スベリヒユ科：マツバボタン
- モチノキ科：モチノキ
- キョウチクトウ科：ニチニチソウ
- キツネノマゴ科：アフランドラ
- ツユクサ科：ムラサキツユクサ
- ラン科の一種